

# ひょうごの遺跡

## 都へ運ばれた瓦

現在、埋蔵文化財調査事務所では、平成3・4年度に調査した久留美窯跡群（三木市）と平成6年度に調査した神出窯跡群（神戸市西区）の出土品整理事業をおこなっています。この2つの窯跡は平安時代後期から鎌倉時代初めにかけての時期、西日本全域に須恵器のこね鉢や甕を供給していた窯業の大産地でした。また京都を中心とした寺院・宮殿などに瓦を供給したことで重要な遺跡でもあります。今号ではこれらの窯跡で作られ、都に運ばれた瓦を中心として調査・出土品整理事業の成果と、さらに関連のある最近の調査例について紹介したいと思います。



神出・久留美窯跡群で出土した瓦



## 西日本最大の窯業生産地 東播磨

平安時代後期から鎌倉時代初め（11世紀中頃から13世紀初頭）にかけての時期、神出（神戸市）、魚住・林崎三本松（明石市）、久留美（三木市）、魚橋（高砂市）などの東播磨の各地に窯業生産地が点在していました。これらの生産地では須恵器の琬・小皿・こね鉢・甕・壺などを生産していました。特にこね鉢や甕は西日本全域に供給されました。このことは、東播磨の窯業生産地が東日本を中心にその製品を供給していた東海地方の瀬戸・常滑などと並ぶ窯業の大産地であったことを示しています。さらに東播磨の生産地では瓦も生産しており、作られた瓦は平安京やその周辺に造営された寺院・宮殿などに運ばれました。

瓦生産がおこなわれたのは、日本の歴史上で院政期とよばれる時代にはほぼあたります。そして、この院政を経済的に支えたのが受領とよばれる国守たちでした。瓦が運ばれた寺院・宮殿などの造営には受領が大きな役割をはたしました。播磨守に任ぜられた貴族がその造営を担当したことが史料上に多くみられます。この播磨守が造営した寺院などと播磨で

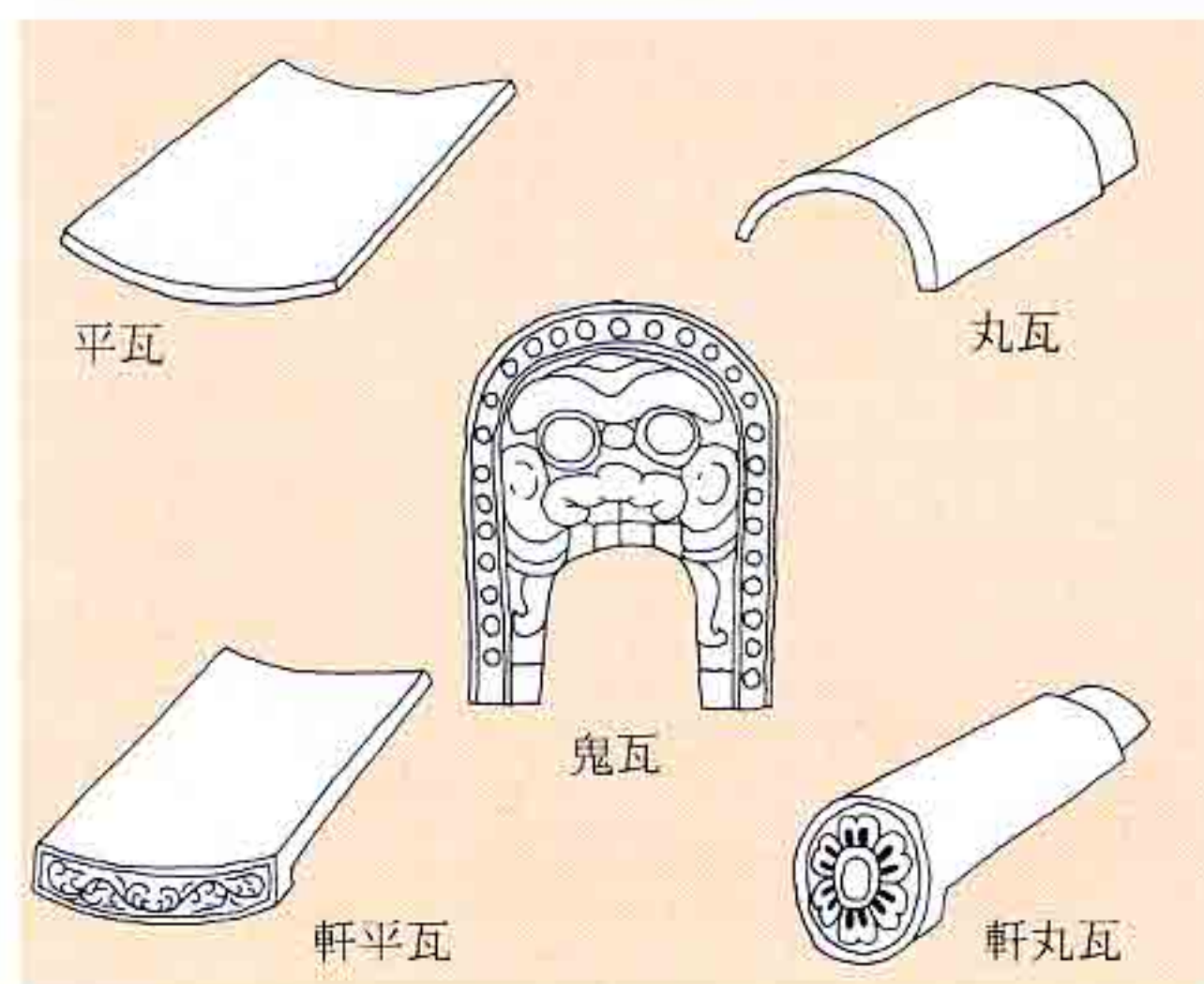


現在も使われている播磨産軒平瓦（東寺）

作られた瓦の出土遺跡とは完全に一致するわけではありませんが、播磨守はその任国で瓦を調達することで、大きな役割をはたしたと考えられます。

また院政期という時代は武士の台頭・戦乱を経て鎌倉幕府の成立にまで至るような全国的に社会が大きく変動した時代です。このような変動のなかで東播磨の窯業生産は短期間のうちに隆盛を極めます。しかし、13世紀にはいと院政期の終末とともに急速に衰退し、15世紀まで続く魚住窯跡群をのぞいては、その存在は忘れられることとなりました。

## 屋根瓦いろいろ



瓦の種類

**平瓦** ひらがわら 主として屋根をおおうための板状の瓦です。雨水が流れやすいようにそりをもたせています。

**丸瓦** まるがわら 平瓦と平瓦の間の隙間におおいかぶせる瓦です。土管を半分に切ったような形で、一方の端がソケット状になったものが多くみられます。

**軒平瓦** のきひらがわら 軒先部分に用いる平瓦です。一方の端を厚くして面をもたせ、その面に唐草文様などをつけ



播磨産瓦で復元された瓦葺屋根（鳥羽離宮）

ます。（この部分を瓦当部と呼びます）

**軒丸瓦** のきまるがわら 軒先部分に用いる丸瓦で、一方の端に円盤を貼りつけたような形をしています。この円盤部（瓦当部）に蓮華や巴の文様をもつものが多くみられます。

**鬼瓦** おにがわら 棟の先に用いられる瓦で、アーチ形をした板状の瓦に鬼の顔をあしらっています。



## かで 神出窯跡群 工人たちの仕事場

神出窯跡群は神戸市西区神出町の印南野台地の東北端に位置します。窯は台地に切れこむ浸食谷や雄岡山おっこうさんの斜面を利用して作られました。現在までに約40基の窯跡が調査されていますが、本来は100基以上の窯が存在したようです。この窯跡群では、11世紀中頃に須恵器の生産を開始し、13世紀前半にその生産を終えたようです。また窯場の背後の平坦地には、掘立柱建物跡・炭窯・粘土採掘坑など工房跡と推定される遺構が広がっていました。

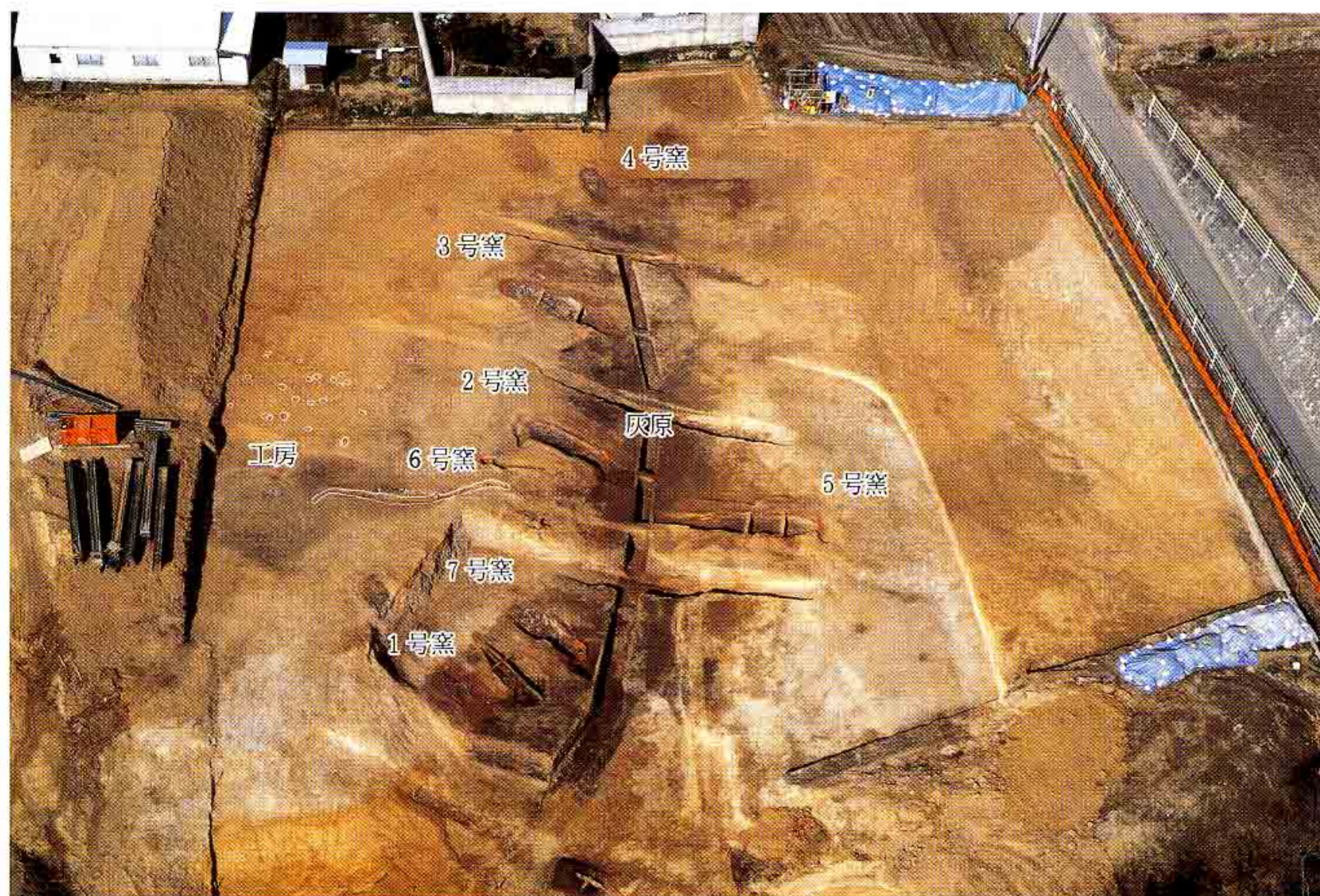
ここでは平成6年度の神出浄水場施設拡張工事に伴う県教育委員会の調査の成果を紹介します。この調査では神出窯跡群の南側に位置する1支群をまるごと調査することができました。南から北に向かって切れこんだ谷を取り囲むようにして登窯が6基と土師器を焼いたと考えられる小型の窯（6号窯）が1基見つかりました。12世紀初めから終わり頃まで操業していたようで、同時に操業していたのは2・3基と考えられます。谷は写真を見てもわかるように、炭を多くふくんだ黒い土や、不良品として捨てられた大量の須恵器・瓦片で埋めつくされていまし



5号窯

た。さらに、谷の西側の平坦地では2間×3間の掘立柱建物跡が見つかりました。この建物では須恵器を成形するのに使用したロクロをすえつけるための穴がみつかり、工房跡と考えられます。ここで瓦も製作されたものと推定されます。

承保2年（1075）からの法勝寺造宮に伴い東播磨でももっとも早く瓦を作り始めたと考えられる神出窯跡群ですが、整理作業の結果からみると、須恵器生産に対する瓦生産の比率は量的にかなり低いものであったようです。



窯跡の全景



## く る み 久留美窯跡群 瓦を焼いた登窯

加古川の支流、美嚢川を少しさかのぼった三木市では、市街の東側を取り囲む跡部・久留美・平井・与呂木・宿原などの丘陵の谷間で奈良・平安時代の窯跡が数多くみつかっています。県教育委員会では山陽自動車道建設に先立って、久留美窯跡群の支群である柳谷支群の発掘調査をおこない、奈良時代と平安時代後期の窯跡16基を調査しています。

東播磨では、一般に瓦焼成専用に使われる床面に傾斜のない平窯ではなく、須恵器を焼成した登窯



久留美窯跡群の遠景

で瓦を焼いています。そのため、東播磨の瓦は須恵器のように硬質であるのが特徴です。

柳谷15号窯は平安時代後期の登窯ですが、その床面に丸瓦や半分に切った平瓦を13段にわたって横に並べ、階段状にしていました。これは瓦を窯詰めする時に並べやすくするためです。久留美窯跡群では神出窯跡群と比べて須恵器に対する瓦の比率がかなり高いことと考えあわせると、ここでは瓦に比重をおいた生産がおこなわれたようです。



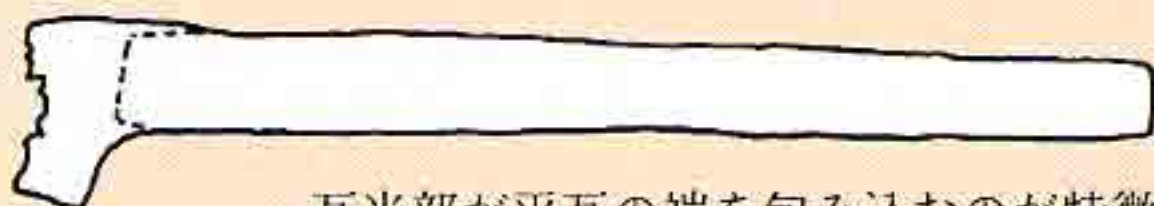
柳谷15号窯

## 都へ行った瓦工人

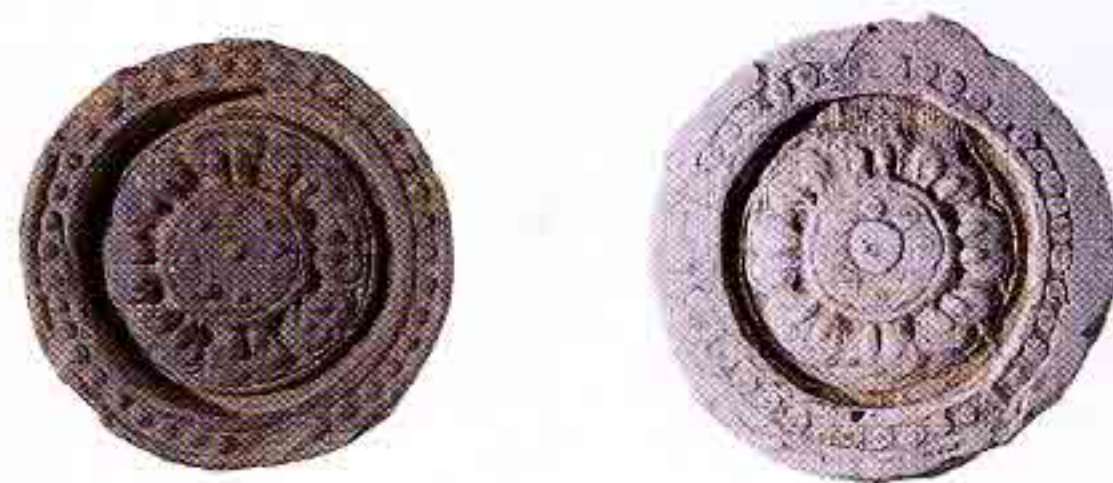
鳥羽離宮の田中殿推定地からは、焼けひずんだ瓦や窯壁などが出土しています。このような不良品などが出土しているのは近辺に窯があったことを示しています。この瓦などは硬く焼けているので、平窯ではなく登窯で焼いたと考えられます。しかしこの時代、播磨以外の主要な瓦生産地ではあまり登窯は使われていませんでした。

この窯で焼かれた瓦は鳥羽離宮の東殿白河天皇陵の堀の中から多量に出土しています。播磨守藤原基経の造営によって天仁2年(1109)に完成した白河天皇陵三重塔の屋根を葺いていたようです。この軒平瓦には、播磨の瓦に特徴的ないわゆる「包み込み技法」で作ったものがみられます。

右の軒丸瓦の写真は白河天皇陵と久留美窯跡群から出土したものです。この二点は全く同じ文様です



瓦当部が平瓦の端を包み込むのが特徴的  
鳥羽離宮跡から出土した軒平瓦の断面図



鳥羽離宮跡出土(左)、久留美窯跡群出土(右)

が、よくみると久留美出土の瓦には細かいスジがあるのがわかります。瓦に文様をつけるには、木製の型(瓦範)を使用することが多いです。白河天皇陵の瓦は新しい瓦範を用いて鳥羽で作られたようですが、久留美では度重なる使用のために木目に沿って痛んでしまった瓦範を使用したことによって、瓦にこのようなスジがついてしまったのです。以上のことから、鳥羽の後に久留美の瓦範が使われたことがわかります。これらを考え合わせると、播磨の工人が京都の鳥羽の地に「出張」して窯を築いて瓦を製作し、そこで使用した瓦の範をもって三木の地に帰ってきたことが想像できます。



はやし さき さん ほん まつ

## 林崎三本松窯跡群 東播磨の造瓦センター

林崎三本松窯跡群は明石市街の西方の明石海峡を望む段丘崖上に位置します。震災復興事業に伴い平成8年度に明石市教育委員会によって調査されました。段丘の端にある谷の両側に登窯が5基見つかりました。灰原から見つかった遺物はほぼ瓦のみでした。瓦を専門に焼いていた点は、ほかの東播磨の窯跡と大きく異なっています。

また注目されるのは、この窯跡の出土瓦の中に神出や久留美の窯跡群から出土した軒平瓦と同じ瓦範で作られた軒平瓦があることです。このことから林



窯跡の全景



神出出土（左上）、久留美出土（右上）

林崎三本松出土（下）

崎三本松を中心とする瓦工人の交流関係がわかります。林崎三本松窯跡群は、京都での膨大な瓦需要に対応するために12世紀のある時期に他の諸窯を巻きこむように編成され、その後も東播磨における瓦作りの中心を占めたようです。

そして建久8年（1197）の文覚上人の主導による東寺の再建に林崎三本松窯跡群で焼かれた瓦が利用されたのを最後に、瓦を東播磨から都へ運ばれることはなくなり、東播磨での瓦生産は急速に衰えてゆきました。なお、この林崎三本松窯跡群で焼かれた瓦は、現在も東寺の屋根を飾っています。

## 整理作業のはなし — 拓本 —

一般に遺物を記録するには実測図を作成したり、写真を撮影したりしますが、瓦の記録にあたっては拓本という技術が欠かせないものとなっています。拓本は文様や形を直接写しとることができ、遺物の微妙な凹凸を黒と白のコントラストで鮮明に知ることができます。瓦以外にも土器や金属器に刻まれた文様や文字などを記録するのによく使われます。



- ①必要な大きさに切った画仙紙<sup>がせんし</sup>を遺物のうえに置き、霧吹きなどで画仙紙を湿らせて遺物にはりつける。遺物と画仙紙との間に残った空気を追い出すようにして、脱脂綿などで画仙紙を遺物に押しつけて密着させる。
- ②画仙紙を遺物にはりつけおわるとすこし乾かす。完全に乾ききる直前くらいを見はからって、タンポ（綿を絹布でくるんだもの）で墨を打つ。この時、ムラが生じないように気をつけなければならない。
- ③墨を打ちおわったら画仙紙を遺物から取りはずす。シワをのばして、電話帳や新聞紙などの吸水性のよい紙にはさんで乾かす。
- ④出来上がった拓本



## 瓦を作ったところ 瓦が運ばれたところ



たまつ たなか  
玉津田中遺跡



玉津田中遺跡の池

玉津田中遺跡は神戸市西区玉津町にあり、12世紀後半から13世紀初めにかけての東西約1町、南北1町以上の範囲を堀で囲んだ居館跡がみつかりました。居館の中央部には遺水・滝口をもつ池があり、その西・北側には建物跡や井戸などがありました。池の中から瓦が多量に出土しており、瓦を葺いた仏堂などがあったと考えられます。この遺跡で出土した瓦には神出窯跡群で作られたものがかなり含まれています。

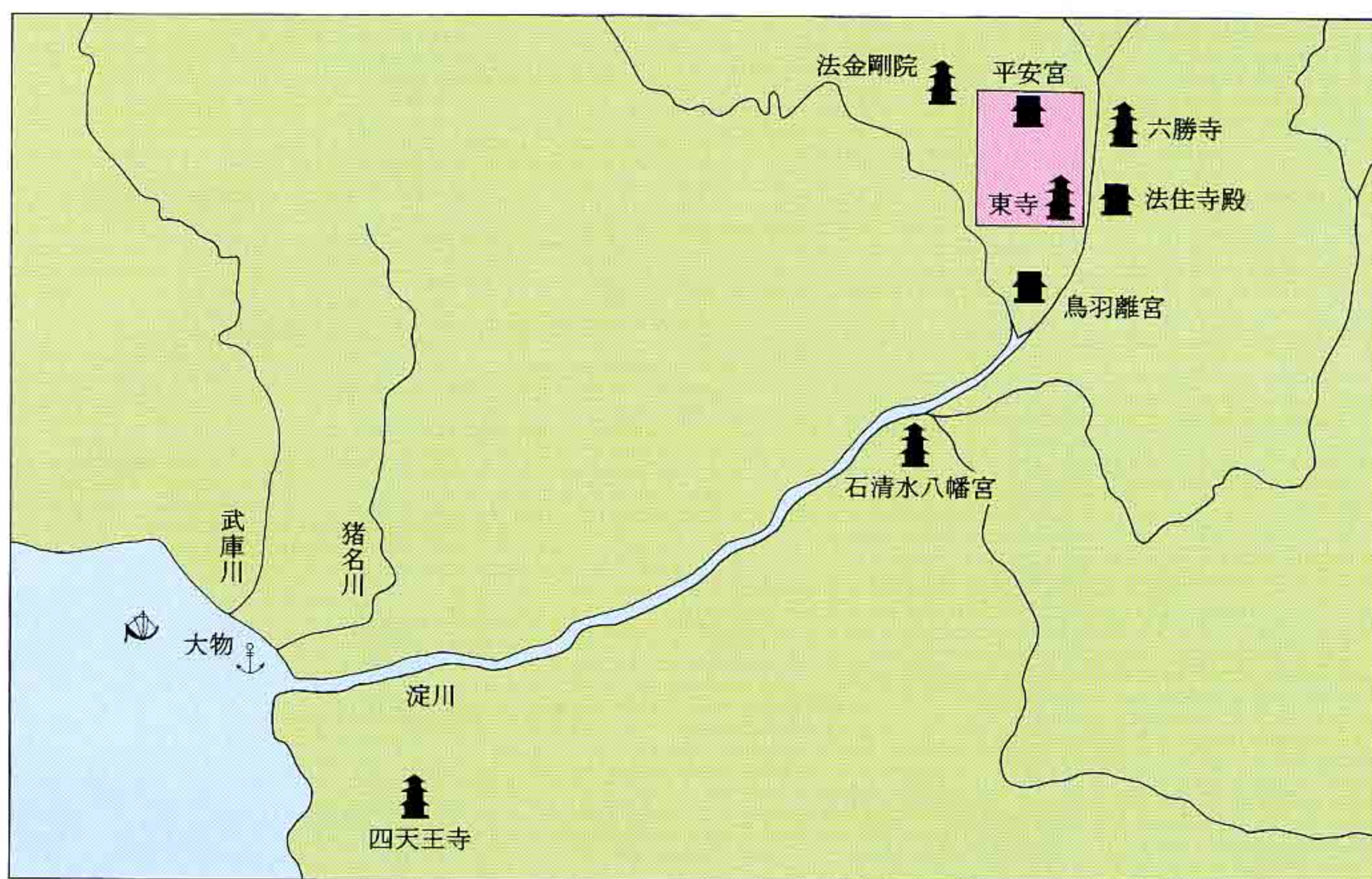
き おん  
祇園遺跡



祇園遺跡の庭園

祇園遺跡は神戸市兵庫区上祇園町にあり、神戸市教育委員会が調査をしています。12世紀後半の石敷きの庭園の池などが見つかり、土師器や輸入陶磁器のほかに瓦がかなり多量に出土しています。瓦には神出や三本松で作られたもの以外に、京都で作られたらしい瓦もあります。近くには平清盛が福原に設けた邸宅「平野殿」があったらしく、この遺跡はその「平野殿」か平家にゆかりのある人の邸宅と考えられます。





とば  
鳥羽離宮跡



こうごんしんいん  
金剛心院の庭園

京都市の南郊にある鳥羽離宮は白河天皇が応徳3年（1086）から造営を始め、その後も白河・鳥羽両上皇が造営を続けました。京都市埋蔵文化財研究所などの調査により、苑池やその周囲に配置された御所や仏堂などの遺構が明らかになりました。御所や仏堂の跡から出土した瓦は地点により比率は異なりますが、播磨で作られた瓦がかなりの割合を占め、特に最大規模の仏堂である金剛心院では8割にも及びます。

りくしょうじ  
六勝寺跡



そんしょうじあみだ  
尊勝寺阿弥陀堂跡

承保2年（1075）、白河天皇の御願寺の法勝寺造営に始まり、尊勝寺、最勝寺、円勝寺、成勝寺、延勝寺の6つの寺院（六勝寺）が12世紀の前半までに鴨川の東の白河の地に造営されました。京都市埋蔵文化財研究所などの調査により法勝寺と尊勝寺の堂塔の配置がある程度明らかになりました。六勝寺域からも播磨産の瓦は多数出土していますが、特に尊勝寺跡では軒平瓦だけでも約100種類もの文様があります。



## おしらせ

わたしたちの事務所の仕事は、発掘調査や出土品の整理ばかりではありません。埋蔵文化財への理解を深めていただくため、この『ひょうごの遺跡』を刊行したり、調査成果の一部を他の機関と共催して展示するといった普及活動も大切な仕事です。

現在、加東郡社町の県立教育研修所玄関ホールでは、魚住古窯跡群の製品を中心に、『播磨の遺跡(2)ー全国に流通する播磨の須恵器・瓦ー』という展示を行っており、兵庫県民会館2階「ふるさと資料室」では、昨年の『災害と考古学(1)ー地震跡を掘るー』に続いて、『災害と考古学(2)ー火山災害を掘るー』のささやかな企画展示を行っています。

どちらも展示期間は平成10年春までですので、お近くにお寄りの機会があれば、ぜひご覧下さい。

また、『新発見考古速報展 発掘された日本列島'97』は東京国立博物館、鹿児島、豊橋、弘前、神戸、岡山の各地で行われます。東京以外の会場では各館企画の特別展示も同時開催されます。

神戸市立博物館での展示は11月2日から11月24日までの期間で、特別展示は『ひょうご 復興の街から』のタイトルとなる予定です。当事務所が最近調査した貴重な遺物もいくつか展示される予定ですので、どうぞお楽しみに。



ひょうごの遺跡26号作成にあたり、下記の機関から写真を借用させていただきました。

神戸市教育委員会

祇園遺跡の庭園

明石市教育委員会

林崎三本松窯跡の全景／出土軒平瓦

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

播磨産瓦で復元された瓦葺屋根（鳥羽離宮）

鳥羽離宮出土軒丸瓦

金剛心院の庭園／尊勝寺阿弥陀堂跡



### 編集後記

7月1日をもって臨時的任用職員の石松崇さんが但馬の香住町教育委員会に就職されました。かわって小川弦太が加わりました。石松さんの今後のご健闘をお祈りします。

瓦礫と化した遺物も整理・研究することによっていろいろなことがわかります。今後も機会があればその成果をみなさまにお伝えしたいと思います。